

ID No.310	
研究課題名	動物の病原体のサルでの感染実験
研究代表者	柳井 徳磨 （岐阜大学・教授）
研究組織	受入教員 甲斐 知恵子 （東京大学医科学研究所） 研究分担者 村上 智亮 （岐阜大学） 浦野 徹 （熊本大学） 野口 和浩 （熊本大学） 中井 裕 （東北大学） 福田 康弘 （東北大学） 森本 素子 （宮城大学） 服部 正策 （東京大学医科学研究所）
研究報告	
1) 新興感染症ウマヘルペスウイルスEHV-9の霊長類への感染の可能性検討: EHV-9経口感染によるサルにおける脳炎誘発の可能性の予備検討として, マウスおよびハムスターにEHV-9を経口接種したところ, EHV-9抗原は口腔および舌の大食細胞内にみられ, 次いで三叉神経内を介して脳炎を引き起こした。これらの結果は, 霊長類でのヘルペスウイルスの感染性を検討するうえで有用な情報となる(柳井, 村上)。 2) ヒト膣内細菌叢研究のモデルとしてのリスザルおよびヨザル有用性: ヒトの膣内では乳酸菌を最優勢とする常在細菌叢が形成され, 外部からの病原菌の侵入・増殖を防除していると考えられている。そこで, ヒト膣内での乳酸菌の役割を研究するためのモデル動物としての霊長類の有用性を明らかにするため, 奄美病害動物研究施設で維持されているリスザル(6匹)およびヨザル(7匹)の膣内細菌叢の検索を行った。リスザルおよびヨザルの膣内から分離された菌種はそれぞれ8種類および5種類であったが, 検出率の最も高かった菌種は共通してStreptococciであった。リスザルおよびヨザルにおける分離菌数はそれぞれ平均$10^{3.6}$ (CFU/vagina)および $10^{4.8}$ (CFU/vagina)とリスザルの場合がヨザルよりも高かった。以上より, リスザルはヨザルよりもより複雑な膣内細菌叢を持っていることが示唆された。Lactobacilli(乳酸菌)はリスザルからのみ低い菌数で検出され, その検出率は67%と比較的高値であったことから, リスザルの膣内には乳酸菌が低い菌数ながら常在している可能性が示唆された。以上の成績から, 今後はリスザルの膣内細菌叢について, 特に膣内の細菌数が高く維持される繁殖期の時期についての検討をさらに行う必要があると考えられた(浦野, 野口)。 3) <i>Cryptosporidium andersoni</i>を含む胃感染型クリプトスポリジウムのヒトに対するリスク評価: 同原虫のサル個体で感染実験の基礎データとして, 牛由来の同原虫の遺伝的背景を詳細に検討し, 同原虫の効果的増殖方法を検討中(中井, 福田, 森本)。	